

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4077300194		
法人名	医療法人 聖峰会		
事業所名	グループホームひまわり3号館		
所在地	うきは市吉井町福益121-2 (電話) 0943-76-4520		
自己評価作成日	平成23年10月17日	評価結果確定日	平成24年1月12日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

耳納連山の麓にあり、四季を感じ取ることが出来る。又、徐々にではあるが地域との交流が出来るようになってきた。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html">http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	平成23年11月25日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

ロッジを思わせる2ユニット平屋建ての事業所である。耳納連山を背景に柿畑が広がり、自然豊かな環境にある。玄関から入ると、リビング・居室もガラスを一面に使った明るい室内で解放感あふれている。「家族・地域の人が自由に出入り出来るような開かれたホームでありたい」との思いの下、事業所主催のイベントには区長・民生員さんの協力もあり、夏のふれあい交流会・餅つき大会を盛会にしている。職員も利用者と一緒に行事の参加等の呼びかけのチラシをまいたり、利用者・家族と常に一緒に話し、家族からの信頼を得ることが嬉しいと話す等、明るい雰囲気を持った事業所である。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員皆で作成した。職員の意識を高める為に毎朝唱和している。	法人理念を具体化して、「笑顔と謙虚な姿勢で地域の方と支えあい・・・」と全職員で話し合っって作り上げた理念を共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者は自ら地域との付き合いをすることが出来ないで職員が地域の一員として地域の活動（道路愛護、敬老会など）に参加し、交流を深めている。	町内会・自治会に加入している。道路愛護や地域の敬老会に参加し、事業所主催のイベントや夏の交流会、餅つき大会には、区長、民生員の呼びかけもあり、地域の住民が参加している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に指導をしたり、相談の窓口を設けたりはしていないが、運営推進会議や地域の方を招いての催し物等の時を利用し、指導や相談を受けている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では現状を詳しく説明し、地域や行政の方の意見を聞き、サービスの向上に努めている。	定期的に運営推進会議を開催している。現在の取り組み状況や今後の活動計画等を報告し、委員からの意見・要望・質問等をもらっている。地域の独居高齢者の実態等の報告があり、委員から出された意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や施設のイベントの時等に、区長や民生員とは密に連絡を取り、災害時などにも協力をしていただけよう、連携をとっている。	事業所便りを行政に持参し、事業所の実情を報告している。また、区長からの紹介で、地域の人の相談を受ける等、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの意識は十分理解しているが、離設の可能性が高い現時点では玄関の施錠をしている。	玄関にセンサーを設置し、日中は施錠せず、職員は利用者の外出傾向を把握し、見守り付き添い等を行っている。しかし、買物等の外出支援を行う際に事業所内の職員の数に極端に少なくなる時のみ、一時的に施錠している。身体拘束に関するマニュアルを作成し、見守り方法の徹底・リスク対応等、全職員は外部研修や内部研修に参加している。	一時的な施錠に関しても、今後の取組について検討してほしい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会を通じて虐待について学んではいるが、より十分な知識を得るため、今後も学ぶ努力をしていきたい。事業所内での虐待防止には努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については学ぶ必要が大きいとは思われるが、十分に学ぶ機会がなかった。十分な知識を得るために、今後も積極的に研修会などに参加したい。	制度に関して利用者・家族等に、契約時に説明している。職員は、制度について研修等を行っている。	職員が参加した研修の報告書等を残し、いつでも研修内容の振り返りができるようにしてほしい。
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書、重要事項説明、個人情報、看取りなどについて説明を行い、同意を頂いている。又、入居前には見学をして頂き、納得された上で入居していただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者は職員に不満などを素直に訴えている。職員は不満に対する解決法を話し合い、利用者にとって何が良いかを検討している。	利用者本人が運営推進会議に参加し、意見や思いを述べる機会がある。利用者の願いや要望等には、解決に繋げている。家族には面会時にも声掛け、話しやすいような環境づくりに努めている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見、提案は聞いてもらえるが、職員の方が積極的に意見、提案を言っていない。運営に関してもっと関心を持つ必要がある。	ユニット別や両ユニットで、月1回ミーティングを設けている。利用者へのケアや待遇について、また、残飯で肥料を作って畑の堆肥にする等、職員の意見・提案を運営に反映させている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パート職員以外は資格習得、就業態度などの努力に対し、準職員には本職員への推薦制度がある。又、福利厚生施設の利用や職員旅行などがある。精神面のフォローは相談室が設けられている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>職員募集や採用に関しては、法人本部が行なっている。採用後は、指導者をつけ指導し、法人の全体研修などに参加し、法人に馴染ませている。資格取得や研修の機会を与えている。</p>	<p>採用は法人本部で行っているが、性別・年齢等を理由に採用対象から排除していない。働く職員に、能力を発揮して自己実現の権利が十分に保障されるよう、資格取得や研修の機会を積極的に促している。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>自己研鑽を行ったり、ミーティングの時などに注意し合い、検討を行っている。又、法人や地域が行う研修の際には、積極的な参加を促している。</p>	<p>職員は人権に関する内・外部研修に参加している。外部研修後は、月1回のミーティング時に、伝達研修を行っている。</p>	<p>職員が参加した研修の記録・報告書等を残してほしい。</p>
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は法人内外の研修への積極的な参加を促している。管理者は職員にこれを周知し、勤務の調整を行い、研修の機会を設けたり、積極的な参加を働きかけている。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム部会の交流会に参加して理解を深めたり、法人の介護部研修に参加して交流や意見交換を行っている。又、法人の介護事業部と運動会して交流をしている。</p>		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>見学相談は入居前に行い生活歴、出来る事出来ない事不安、困りごと、何を希望するのかを聴きホームでの生活がスムーズに送れるよう努めている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所前に来て頂き施設内の案内、説明を行い、納得がいくまで説明し、理解してもらっている。又、家族から多くの情報を収集して利用者が円滑に生活できるよう努めている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の時、他の介護施設や利用法を説明し、家族が納得できるよう話したり、紹介を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する、されるといった関係ではなく、一緒に過ごし支えあうよう努めている。本人を良く知ろうという姿勢で関わるように努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止め両者の関係が上手く築かれていくように努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、近所の人々は積極的に来ていただくように、又、行きつけの場所には家族の協力や職員と行けるように努めている。	利用者の馴染みの人や場所について、利用者や家族から聴取し、会いに行ったり、訪れたりしている。理容室は行きつけの場所を利用している方もいる。散歩の途中で顔馴染みの方と接触するといった些細な事も大事にしている。地域住民と円満な関係を築きあげている。それらを継続できるよう働きかける等、区長らの協力がある。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう入居者間の関係作りに努めている。洗濯物たたみ配膳の準備などを利用し関わりあえるよう努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も電話送電や、入院された場合などは面会に行くなどして、関わっている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いを訴えることが出来ない利用者に関しては、家族や関係者と相談しながら本人中心の生活が送れるように努めている。	職員は日常の中で利用者に声掛けし、表情や身振りなど観察、トイレに行きたい・お腹がすいた等、動きから利用者の気持ちを察している。また、意思疎通が難しい利用者に関しては、家族から情報を得るようにしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や面会に見えた方より話を聴き情報を得ている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	観察を行いながら、出来る事はして頂き個別に対応している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望や意見を取り入れ、介護計画を作成している。又、毎月話し合い計画に繁栄している。	ケアマネージャーが、担当職員や医師の意見を聞いて作成した介護計画の原案に利用者や家族の希望を取り入れて作成している。また、3カ月に1回以上は見直しを行っている。計画作成時及び見直し時は、その計画書に対して、家族に確認、署名または押印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録を行い、日勤者や夜勤者に引継ぎを行っている。家族へは、介護計画を見せ、サインを頂いている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	記録のほか、問題があれば家族に電話で連絡を取っている。受診が必要であれば同行し、入院が生じた場合は面会に行き洗濯などを行っている。又、リハビリや医療面に関しては、指導を受けている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望者はかかりつけの美容院、理髪に同行、買い物に同行している。又、地域の行事や小学校の行事に参加したり、ボランティアの訪問を受けている。年2回消防署の協力を得て訓練を行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望に応じて医療機関を選択できるようにして、受診時は同伴している。必要に応じ、家族に同伴してもらったり、報告を行っている。	一人ひとりのこれまでの受診経過と、今後の希望を聴取して、これまでのかかりつけ医や希望する医療機関による受診を支援している。市内受診は、事業所が受診の支援を行い、それ以外は家族受診の支援をしている。通院介助の方法や療養上の注意事項等伝達方法については、家族と話し合って合意している。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医療機関の看護師や訪問看護に指導を受け対応している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院になった場合は定期的に面会に行き、利用者に不安感がないように努めている。医療機関と連絡を取りながら早期に退院できるように努めている。又、必要に応じ往診もお願いしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に病状を説明したり、かかりつけ医より説明して頂き、家族の希望に添える様努めている。看取りを希望された場合は、主治医と連絡を取りながら、往診、点滴注射などをしてもらっている。	「重度化や看取りに関する指針」について明文化しており、利用開始時に同意書を交わしている。また、家族・職員・かかりつけ医がよく話し合ったうえで、状況の変化に基づく判断を行い、情報を共有して支援に取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人が開催する研修や消防署の研修を受けている。しかし、応急処置や初期対応は十分とは言えない。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練は年2回行っている。しかし、地震や水害に関しての訓練は行っていない。民生員や区長に協力を依頼している。避難場所の確認は出来ている。	マニュアルを作成しており、年2回避難訓練を行っている。消防署の協力を得て、避難経路や消火器の使用方法についても確認している。訓練実施については、区長や民生員を通して地域住民への参加を呼び掛けている。	非常時に備えて、食料・飲料水・備品の準備を早急にしてほしい。
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないよう対応や言葉使いには心がけている。	職員は利用者の気持ちを大切にし、さり気ないケアを心がけている。排泄にはさり気なく誘導する等の配慮に加え、本人のプライバシーの取り扱いについても、ミーティング時に研修する等、日常での意識向上を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話や表情、態度で思いを汲み取るように心がけている。意思疎通が出来ない方には表情や行動で希望に添った支援が出来るように心がけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームで一日の流れや行事が決まっている部分もあるが、その中で希望があれば希望に添った支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は個人の希望する物を身に付けてもらっている。本人が希望する理髪や美容院に行きパーマ、毛染めなど行っている。又、行事や外出時には化粧をしたり、本人希望の洋服を着てもらっている。2ヵ月毎にカットサロンより来て頂き、希望者はカットしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、食器洗いなど出来る部分は手伝っていただいている。調理は食べやすいように個別対応している。高齢者が好む献立を作成している。食事中はBGMを流している。	職員も利用者と同じ物を同じテーブルで食べる。準備・片づけもできる範囲で一緒に行っている。一人ひとりの嗜好を把握しながら、栄養バランスにも配慮し、畑の採りたて野菜を用い、楽しい食事となるように取り組んでいる。	



項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を記入して把握している。摂取量が少ない時は介助したり、軟らかくして提供している。嚥下困難な方には、トロミ剤を使用し低栄養や脱水に気をつけている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事毎に口腔ケアを行っている。自力不可の方に関しては職員が介助している。義歯は就寝前に洗浄剤に着け、翌朝装着している。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人個人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。	排泄表で排泄の間隔や習慣を把握し、声掛け等で誘導を行っている。訴えない方には定期的に誘導を行い、トイレでの排泄を継続できるよう支援を行っている。状況が変わった場合は、家族了解のうえで、見直し変更を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取量や排泄パターンを把握し、自然排便が出来るように努めているが、便秘の方に関しては主治医と相談して緩下剤を服用している。腹部マッサージや体操を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日は個人の状態で職員が決めているが、本人の希望を聴いている。汚染等により入浴が必要な場合は、その都度行っている。	利用者の生活習慣や希望に併せて、入浴を支援している。言葉かけや会話にも留意し、入浴が楽しいひとときになるように支援している。入浴を拒否される利用者には、時間を置いたり、促し方を変える等、誘導方法にも工夫している。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に添った休息や、睡眠が取れるよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示に従い服薬している。薬の説明書をカルテに綴じ確認できるようにしている。服薬時に名前の確認を行い間違えないように努めている。気になる症状があれば、副作用の確認主治医へ相談している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年間・月間行事に参加、ボランティアの受け入れ等を行っている。又、洗濯物を干したり、たたんだり、掃除の手伝いなどをして頂いている。家庭菜園の野菜の収穫なども一緒に行っている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良いときは、近くを散歩している。家族による外出、外泊の協力をお願いしている。	天気や利用者の体調、希望に応じて支援を行っている。散歩は週3～4回、買い物は2週間に1回、また、桜や紫陽花等の花見・三連水車・昇龍観音等へのドライブを月1回行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来ない為、施設で預かっている。教人の方に関しては、最小限の金額を持たせている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙などを出す方は現在はいない。電話に関しては、本人の希望時に手伝っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の下駄箱には個人の名前を張りわかりやすいようにしている。リビングはソファを置き、自由に使用している。又、庭には自由に入出入りが可能。	ソファや椅子が程良く配置され、季節毎の折り紙やイベント写真等を掲示し、居心地よい空間づくりに配慮している。日光はブラインドで調整し、テレビの音量等にも配慮している。広いウッドデッキでは、日向ぼっこや、バーベキュー、そうめん流し等を楽しんでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	館内では自由に過ごせるようにしている。テーブルはトラブルにならないように名前を張っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、個人の使い慣れた家財が持ち込めるようにしている。又、テレビやエアコンを設置している。	利用者の居室には、鏡台・馴染みの小物・壁掛け時計・家族写真等が持ち込まれており、利用者の個性が感じられる。また、居室の入り口には、手作り暖簾・表札を飾っている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室には手すりを設置し、自由に動けるようにしている。トイレは車椅子が自由に出入りできるスペースを確保している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	-	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	-	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	-	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	-	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	-	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	-	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝引継ぎの際に唱和し、確認するとともに意識を高めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	道路愛護や会合、地区敬老会、一人暮らしの高齢者の集い、小学校の事業に参加し、地域の人々との交流に努めている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区会合の際認知症や介護についての悩みや相談に応じることを伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、市役所、区長、民生員、家族、ボランティアの方に参加依頼し、施設の状況や行事などの報告、意見交換を行っている。		
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の地域参加行事には、区長、民生員や地域住民、入居者の家族に計画から参加して頂きサービス向上に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ全員で取り組み意識を高めている。玄関は施錠せずにセンサーを利用し、離脱防止に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自己研鑽を行ったり、ミーティングの時に話し合っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人権講習会やグループホーム部会の研修に参加して知識を得ている。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に施設内を案内してグループホームに対する理解や入居条件を理解いただくようにしている。又、入居時に契約書、重要事項の説明、個人情報、看取りについて再度説明を行い同意を頂いている。必要があれば、その都度説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしている。面会時に声かけを行い話しやすいような環境作りに努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全体ミーティングを行い、改善案や意見の交換を行っている。必要時は話し合いを設けている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年2回人事考課を行い面接を受けている。準職員から本職員への推薦も行なっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用に関しては、法人本部が行っている。性別、年齢などは特に指定してはいない。新人に関しては、指導者をつけ指導を行っている。又、法人が行う新人研修に参加している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人が開催する人権研修に参加している。参加できなかった者に対しては、DVDを観てもらっている。又、介護事業部の研修や居住地の人権講和などには積極的に参加するように努めている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は法人内外の研修への積極的な参加を促している。管理者は職員にこれを周知し、勤務の調整を行い研修の機会を設けたり、積極的参加を働きかけている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会の交流会に参加し、理解を深めたり、法人の介護部研修に参加して交流や意見交換を行っている。又、法人の介護事業部と運動会に参加して交流をしている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や見学の際情報を得ている。入居後は出来る限り寄り添い不安の除去に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談の際家族が困っている事や不安などを聞き支援している。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人の話を聴き、他のサービスの紹介や事業所の紹介などを行い、必要時は紹介している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であり、学ぶ事が多く、共に支え合うことを考え行動している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の変化や行動などを家族と共に喜んだり悩んだりしながら本人にとって何がベストかを検討している。ふれあい交流会を行い関係作りに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	友人知人の面会を大切にしている。家族の協力を得て外出や外泊の協力を得ている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が上手く行かない場合は職員が中に入り関係作りを行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の介護に関する不安や不明な部分は納得いくまで説明し、必要に応じた施設や事業所の紹介を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人にとってベストは何か検討し、家族や本人の希望をケアプランに入れている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から情報を得て把握している。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	グループで過ごしたり一人で過ごしたりと自由に過ごしていただいている。心身の状態を観察し安心した生活が出来るように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望を踏まえケアプラン会議時に検討している。ケアプランは家族に了解を得実施している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに添った記録を行い日勤、夜勤の交代時に引継ぎを行い、継続したケアが行えるように努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時は職員が付き添っている。入院が必要な場合は家族と連絡を取り相談している。又、入院された場合は、面会に行き不安の除去に努めている。洗濯物などは施設に持ち帰り、面会時に持参している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	複数の地域ボランティアの方々に来て頂き楽しんでいただいている。また、理容・美容室など協力を得て個人の行きつけに同行している。祭りやイベントの見物に行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前よりのホームドクターと連絡を取り合いながら適切な医療が受けられるように努めている。必要時は家族に連絡している。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師と連絡を取ったり、訪問看護師の指導を受けている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	安心した入院治療が受けられるように、面会に行ったり、早期に退院が出来るように連携をとっている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望に添って介護している。看取りの希望があれば主治医と連携し希望に応じている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や消防署の協力を得て応急処置や事故には備えているが十分に把握しているかは不安。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署の協力を得火災訓練は行っている。しかし、地震や水災害に関する訓練は行っていない。区长や民生員の方には運営推進会議時に協力をお願いしている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手を尊重した関わりを行っている。恥をかかないように配慮している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に添って関わっている。自己決定が出来ない方に関しては表情、態度を観察して関わっている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	衣類などは本人希望の物を着ていただいている。個人のペースにあった介護に努めており、自由に生活していただいている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床、入浴後などは衣類を整えたり、好みの服を着用している。本人の行き付けの理容、美容室に同行している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べやすいように軟らかく調理している。嚥下不良の方にはトロミ剤を使用し食べやすいようにしている。必要に応じ介助している。テーブル拭きや配膳、食器洗いなど職員と行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事の摂取量は確認している。食欲低下時は主治医と相談し栄養補給に努めている。家庭菜園で収穫した新鮮野菜を使用している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。出来ないかたに関しては職員が介助している。義歯は夜間に職員が洗浄剤につけ翌朝装着している。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレ誘導介助を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、腹部マッサージ、運動を行い、自然排便を心がけている。又、主治医に相談して指導を受けている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	2回/週入浴しているが、体調、汚染時はその都度入浴している。夜間は入浴していない。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やリビングで自由に休息が取れるようにしている。本人の意思を伝えることが出来ない方に関しては介助している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示に従い服薬介助を行っている。薬の説明書をカルテに綴じ副作用などの症状を観察している。薬と名前の確認をきちんと行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族や本人より情報を得て援助している。洗濯物を干したりたたんだりしてもらっている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良いときは散歩やドライブに行っている。又、家族の協力を得、外出、外泊をしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望がなく、施設で管理している。必要時は、使って毎月家族に知らせている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望や訴えがない。希望があれば支援する。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはソファやテレビを設置し、自由に観られるようにしている。外の景色が見え季節感を味わってもらっている。又、四季の移り変わりが味わえるように工作物を展示している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファースにすわって会話したり、テレビが観れるように気の合った入居者同士を集めている。食事の席も配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には元気な頃の家族写真を貼ったり、使い慣れた道具を持参、居室でもテレビが観れるように、自由に出入り出来る。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、リビング、トイレは手すりをつけ自由に動けるようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない